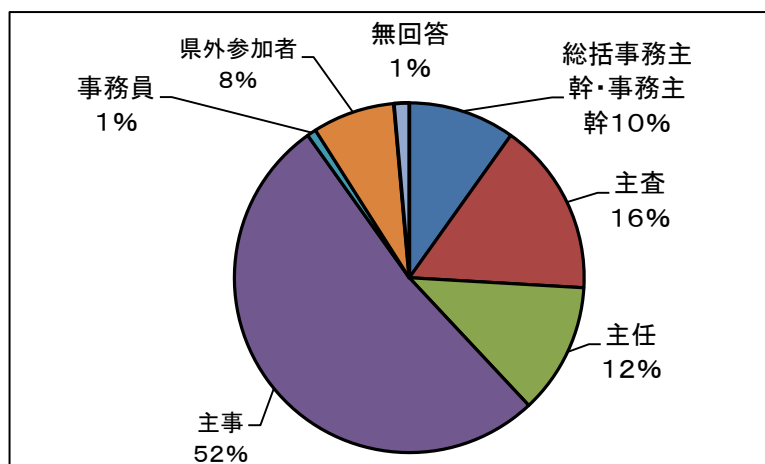


第4回北越地区公立小中学校事務研究会研究大会(新潟大会) 新潟県学校事務研究協議会第33回研究大会 アンケート集計・考察

新潟大会実行委員会 大会運営班

アンケート回答数 355 参加申込数 606 回収率 59 %

職 名 別	人 数	%
総括事務主幹 事 務 主 幹	35	10%
主 査	57	16%
主 任	43	12%
主 事	185	52%
事 務 員	3	1%
県外参加者	27	8%
無回答	5	1%
合 計	355	



Q1 : 参加された分科会・講座研修についてお聞きます。

◆ 参加された分科会・講座について

	分科会 1		分科会2		分科会3		講座研修	
1 よく理解できた	41	53%	84	67%	24	44%	51	52%
2 おおむね理解できた	30	39%	34	27%	22	41%	39	40%
3 あまり理解できなかった	1	1%	0	0%	1	2%	1	1%
無回答	5	6%	7	6%	7	13%	7	7%
合計	77		125		54		98	

◆ Q1-① 自分のこれまでの取り組みを振り返って、どのように感じましたか。

【分科会1】

- ・自分の取組はまだまだ物足りないと感じた。もっと自分から積極的に動いて学校運営に関わらなければいけないと感じた。
- ・基本的な職務にだいぶ慣れてきました。学校ではCSを行っているので地域との窓口になり、連携を図りたいと思います。
- ・スーパー事務職員の話は驚きでした。いろいろな仕事に携わってきましたが、職場体験場所の開拓や授業改善の学校便りは思いもつきませんでした。
- ・自分の今までの取組はまだまだ次のステップにいけると感じた。他の学校の方からお話を聞くと別の視点から考えられ、とても良い研修になりました。
- ・今一度、チーム学校を意識し、できることからやろうと思った。
- ・教職員との協働が重要だと改めて感じました。コミュニケーションをよく取って、自分だけではできないので管理職とよく相談していきたいと思います。

<考察>

富山支部からは富山県内での取組について、藤原先生からは「スーパーな事務職員」についてご紹介いただいた。他県の取組を知り、自分では思いつかないようなアイデアをもらったり業務に対する意欲が促進されたりしたことで、自身の取組をより進めていくきっかけとなったようだ。また、「地域と連携を図りたい」「学校運営に積極的に関わりたい」など、前向きな意見がとても多かった。このことから、参加者が「スーパーな事務職員」の具体的な姿を目にしたことで、地域連携や学校運営に積極的に関わること、教職員と協働することなどの重要性を再確認できたと考えられる。

【分科会2】

- ・ 学校運営の参画はしていましたが、財務に関しての取り組みが甘かったというところで、各支部の発表を聞きました。若手の育成、自身の育成、新潟の発表を聞いて、考えを改めなければいけないと思いました。
- ・ 学校財務と学校経営参画をつなげた取り組みを聞けて有意義でした。
- ・ 徴収金問題は、学校事務にとって永遠のテーマであることを助言者の先生に言われ、あらためて納得しました。まだこれをしなくてはならないのかと思っていたが、やっていいんだと安心しました。
- ・ 各支部の違いを知ることができ、それを取り入れたいと思いました。
- ・ 燕・弥彦支部でも若手中心の研修が行われており、三条支部の発表がとても参考になった。今後自分たちの研修をより有効にしていける為、若手研の目的やり方など、再度よく確認していきたいと思った。

<考察>

3支部の具体的な取組を聞くことができ、とても参考になったという意見が多くあった。若手が積極的に発表をしていたということもあり、支部の人材育成に力を入れたいと感じた参加者が多かった。また、同世代の方が発表をしていることに刺激を受けたという意見もあった。アンケートの1問目について「よく理解できた」と回答した割合が67%と高かったのは、身近な仲間の実践例を聞くことで、具体的なイメージがわきやすかったからではないかと考える。県外の参加者からも、財務に関する取組などとても刺激を受け、ぜひ実践に活かしたいというような意見が多くあった。

【分科会 3】

- ・ あまり取り組んでいない分野でしたが、重要性を認識しました。
- ・ 今まででは学校の防災はあくまでも学校のみのものだという考えだったのですが、分科会を経て学校づくりと地域づくりが同じ意味であることがわかりました。学校の防災意識の向上がそのまま地域の防災意識の向上につながるということを改めて知ることが出来ました。
- ・ 児童連絡票の改訂や避難訓練、情報管理の規則など、まだまだ取り組めることはたくさんあると感じました。
- ・ 自身の防災に対しての意識がとても低かったことに気づいた。危機管理を自分の業務外のことととらえている部分が多かったように思う。事務職員として関わること、関わるべきことを聞けてよかった。
- ・ 防災については、受け身のことが多かった。これではいけないと感じることが出来た。他校の取り組みがとても参考になった。

<考察>

防災や危機管理についてもっと考えるべきであった、これから考えていきたいという意見が多かった。防災・危機管理は学校事務職員の業務では無いと捉えていた参加者が多かったようだが、今回の研究部の提案や、他校での実践例を紹介したことで、実は積極的に関われる場面があるということの「気づき」を促すことができたようである。地域防災や危機管理において、物品や情報管理、その他自分が取り組めることを進んでやりたいという意見も多かった。今後は今回の学びをもとに、学校組織の中でしっかりと役割を担い、それぞれ実践されていくことと考える。

【講座研修】

- ・ 予算の設定について昨年度の決算を参考にしていたが、今年度の予算は今年度のことを考えて設定しなければと改めて思った。職員の声を聞き、管理職と相談しながら意味のある予算書を作成したい。
- ・ 予算委員会を開催すべきと思った。また、財務を担う立場として、学校全体を見て予算配分をしたいと思った。
- ・ 教育計画や、教育課程に基づいて予算をたてることが重要だと分かりました。今まではあまり意識していなかったように思えるので、とても勉強になりました。
- ・ 学校で話していることを「畑違いだ」と思っていたように感じます。一般事務ではなく、学校事務なのだから、もっと教育の面にも目を向け、事務職員の立場から携わっていきたいです。
- ・ 今まで指導案が配られてもあまり読んでいなかったが、先生方がどんな授業をするのか事務職員も把握しておいたほうが良いと思いました。

<考察>

主に採用1～5年目の主事が参加者であった。予算編成や執行について学ぶことができた、自校の教育課程や教育計画を意識しながら財務の業務にあたりたいという意見が多くあった。また、グループワークでは自分とは違う経験年数の方々と情報交換をしたことにより、自身の考えが広がり効果的であったようだ。中には、学校に勤務する事務職員であるから予算の編成や執行だけでなく、教育についても十分な理解が必要だと学校事務職員の専門性について述べている参加者もいた。今回学んだことを自校で早速実践し、少しずつでも着実な一歩を踏み出していきたいと思います。

◆ Q1-② 明日からどんなことに取り組んでみようと思いましたか。

- ・ 他県、富山県、札幌の状況を知ることができて良かった。自分の置かれた環境で、共同実施、職員と連携して自分が今できること、これからやらなければならないことを精一杯取り組もうと思った。(分科会1)
- ・ スーパー事務職員の方の取組みから、少しでもできることがないかを考えていきたい。(分科会1)
- ・ すべて参考になりました。一つ一つ整理してとりこんでいきたいと思います。(分科会2)
- ・ 職員に対して、財務研修をしてみたい。研修資料を共同実施などで作成できると良いなと思います。(分科会2)
- ・ まず、防災について意識しながら過ごしていく(情報を入手する)ということを中心掛けたいと思いました。(分科会3)
- ・ 学校の防災マップをもう一度見てみたいと思います。HPIにも防災情報等をのせられたらと思います。(分科会3)
(避難場所一覧や日頃どのような備蓄品がどのくらい家庭に用意しておくというものなど)
- ・ 自分の仕事だけではなく学校全体に視野を広げていきたいと思いました。(講座研修)
- ・ 自校の教育計画やグランドデザインをよく読み、予算と教育のつながりを考えながら会計の執行をしようと思いました。(講座研修)

<考察>

各分科会、講座研修で学んだことを実践していきたいという意見が多くあった。講義やグループワークをとおして、自分だったら何ができるのか、学校事務職員の立場からどのようにアプローチしていけるのかということを考えることができたようだ。やはり、具体的な実践例などを見聞きしたことで、これからの自身の取組について具体的なイメージを持つことができ、即実践したいという意欲につながったのではないかと。今後、各参加者の実践が継続的かつ発展的なものとなり、各学校の教育の推進に大いに貢献されていくことを期待したい。

Q2 : 研究大会全体を通してお聞きします。

◆ 研究大会全般について、感想や意見をご記入ください。

- ・ 学校の中で唯一の行政職員だからできることや、行政職員だけど学校という教育機関で働く職員としてできることのヒントをたくさんいただいたので、行動に移していきたい。
- ・ 文科省行政説明 洒脱ながら率直で心に響きました。全体研修会 パネラー、コーディネーターともに練られた一言一言が効果的に伝わりました。学校づくり、学校事務の未来づくりへの思いがあふれていて静かに傾聴させていただきました。ありがとうございました。
- ・ 文科省の方のお話、全体研修会とも明日から頑張ろうという気持ちになれる研修だった。
- ・ 新潟県は学校事務について、とても期待が高いということを理解しました。その期待に応えるためにも、学校事務職員の地位としても、今ある仕事をこなし、学び続け、実績を残せる事務職員になりたいと思いました。
- ・ 「チーム学校」改めて考えることができました。
- ・ 紀要の全体会のページがよくまとまっていたので、読んで勉強させていただこうと思います。
- ・ 毎年参加すると、仕事へのモチベーションを上げることができるのですが、今年はこれまでで一番刺激になりました。この気持ちを切らないよう、行動にうつしていきたいと思います。

<考察>

昨年度のアンケート回収率は64%だったが、今年度は59%と回収率が下がった。今年度は北越地区大会を兼ねた研究大会であり県外参加者が多かったが、開催時期がお盆時期と重なり全体参加者数は思いのほか増えず、昨年度と同程度となった。しかし、県外の方と交流が出来て良かったという意見や新潟の取組について知ることができ刺激を受けたなど、北越地区大会ならではの収穫もあったようだ。

開会式が予定よりも早く終了したため、文部科学省行政説明までの間に余白の時間ができた。参加者からは、もったいない時間だと感じたという意見が挙がった。進行を早めるのか、予定通りに進めるのかなど、随時アナウンスを入れるなどして臨機応変な対応が必要であった。また、マイクが聞き取りづらいということや会場の照明が暗すぎたという意見もあったので、会場設営の際に複数の目での入念な確認が必要である。

文部科学省の行政説明や全体会については、難しく理解できなかったという意見もあったが、とても元気の出る内容だったという肯定的な意見が多数を占めた。多くの参加者が、チーム学校の一員として積極的に学校運営に携わろうという意欲を掻き立てられたようだ。今後も時代の流れに合わせたタイムリーな研修を企画し、参加者にとって満足感のある大会運営に努めたい。

Q3：分科会での支部発表についてお聞きます。

- ◆ 来年度以降も支部発表の継続を希望しますか。

希望する	169
------	-----

希望しない	103
-------	-----

無回答	53
-----	----

- ◆ 希望する発表形態はありますか。

分科会を1支部で担当する。	34
分科会を屋台方式で担当する。	23

分科会を複数支部で担当する。	85
毎年度、全支部による紙面発表を行う。	22

その他の意見

- ・2、3年に1度程度、全支部で紙面発表を行う。
- ・全支部の誌上発表は不要である。

<考察>

支部発表の継続の希望については、希望するという意見が多かった。今後も支部発表を継続となった場合は、発表の時期や発表する支部の負担軽減の方策を検討していく必要がある。全会員に発表の機会を用意し、有効な実践を他支部に広げていくとともに、発表をとおして自身の歩みを振り返り今後の実践へとつなげられるような資質の向上・能力の発展が図られることが人材育成の面からも望ましいと考える。

- * アンケート及び大会申込み時に寄せられた皆様の声を受け止めながら、次回大会、そして今後の研修に生かしていきたいと思えます。大会への多くのご参加、アンケートのご協力に感謝申し上げます。